

I 誰もがいきいきと働く，活力ある産業づくり

1 農林水産業の振興

農業の振興

現状と課題

農業を取り巻く環境は，農畜産物の輸入自由化問題や，「食料・農業・農村基本法」の制定により農業政策の抜本的見直しが進む中で，農業生産物の安全・安心の確保，消費者ニーズの多様化，農業従事者の高齢化等による担い手の不足など，非常に厳しい状況が続いています。

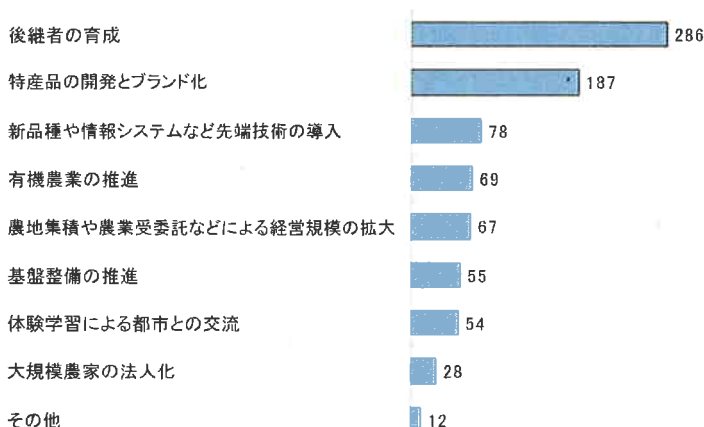
本町の農業は，温暖多照に恵まれた気候と広大な農用地により，生産牛，肉豚，ブロイラーを中心とした畜産，稲作やさつまいもなどの普通作物，果樹や露地野菜を中心に生産され，地域産業の重要な役割を担う基幹産業として位置づけられています。

しかしながら，農家戸数の減少や従事者の高齢化など，担い手の不足や農地の荒廃が危惧されており，地域集落における農地の利用や組織的な生産活動の展開，意欲ある個別経営体の育成や土地利用集積による農地確保，耕作放棄地解消，特産品の開発とブランド化などが，今後の重要な課題となっています。

また，地域農業の担い手となる認定農業者の中でも法人，大規模農家は増加傾向にあります。水田や中山間地域については，集落営農組織の育成支援，新規就農者等については，技術や資金面での支援が求められています。

さらには，地域の資源を生かした都市と農村の交流等を図るとともに，農業体験などの体制構築が課題です。

一方，農業生産基盤や生活環境基盤については，これまで中・長期的に整備を進めてきましたが，更なる営農推進を図るために，引き続き総合的な整備を行っていく必要があります。



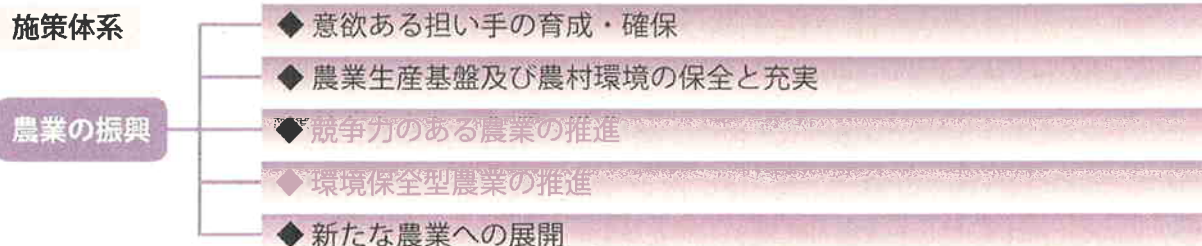
※町民アンケート調査結果【農林畜産業発展のための必要事項】



資料：市町村民所得推計報告書

おおさき未来検討会議の重点提言

- ◆ 農業振興を基本とする⇒民泊を伴う農業・漁業・加工体験を広域的に取り組む
- ◆ 農業法人の育成・大規模農業法人への転換策と人材の投入



計 画

■意欲ある担い手の育成・確保を支援します！

- ・ 農業経営に意欲のある認定農業者を育成・確保するとともに農業法人への誘導を図り、国などの補助・助成制度を活用し、足腰の強い農業経営が実践できるよう担い手育成総合支援協議会を中心にサポートします。
- ・ 担い手への農地集積や耕作放棄地解消を、大崎町農業再生協議会（仮称）を中心に進めます。
- ・ 水田や中山間地域については、集落や地域で取り組む営農組織（集落営農）の育成等を支援します。

■農業生産基盤及び農村環境の保全と充実を図ります！

- ・ 農業の持つ多面的機能を発揮するため、耕作放棄地の発生を防止し、中山間地域においては、集落協定や共同作業等により農業生産活動の維持を図ります。
- ・ 農業の生産性の向上や良好な営農条件の確保を図るため、ほ場整備はもとより、農道・かんがい排水等の農業用施設の整備を進めます。また、近年の自然環境の変化による豪雨の施設被害を防ぐため、必要な排水対策を総合的に進めます。
- ・ 生活環境の地域間格差をなくし、活力ある農村づくりを進めるため、集落道・集落排水等の生活環境の整備を進めます。
- ・ より効率的・省力的な大型機械化を進め、労力や生産コストの低減化等に努めます。
- ・ 畑地かんがい用水を利用した生産性の高い営農を確立し、受益農家の経営向上を図ります。
- ・ 家畜防疫対策の強化に努めるとともに、生産者の飼養管理指導、意識改革等を行い、畜産農家の経営向上を図ります。
- ・ 有害鳥獣による農産物等に係る被害があることから、防止のための施策を関係機関一体となって、総合的かつ効果的に推進します。
- ・ 家畜排せつ物の管理の適正化に努め、安全・安心な農産物生産を推進します。

■競争力のある農業を推進します！

- ・多種多様な消費者ニーズに応え、収益性の高い農業の振興を図るため、産地としてのブランド強化や地域の特性を生かした高品質な農作物の生産を推進します。
- ・地産地消の取り組みによる地場農産物の消費拡大を図るため、積極的なPR活動の支援に努めます。

■環境保全型農業を推進します！

- ・持続性の高い農業生産方式の導入により、環境に配慮した農業を推進します。
- ・良質堆肥等を活用した土づくりと化学肥料・農薬の使用の低減など、主体的に取り組むエコファーマー*等への誘導を推進します。
- ・消費者が求める安全・安心な農産物を提供するため、生産工程管理の取り組みを外部機関が認証する「かごしま農林水産物認証制度」を推進するとともに、生産者の取り組みを支援します。

■新たな農業の取り組みを展開します！

- ・広域的に取り組む農家民泊等による農業体験などを通じ、都市と農村の交流を図り、観光と連携した農業の展開を支援します。
- ・地域振興のため、農産物直売所での農産物販売促進に努めるとともに、自ら生産した農畜産物等を利用して新たに加工、流通販売等に取り組む農家や、農林漁業者が2次・3次産業と連携して、地域ビジネスの展開など新たな農業を創出する取り組みを支援します。

※エコファーマー

1999年に施行された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」（持続農業法）に基づいて、化学肥料や農薬の使用を減らした農家で、各都道府県の知事が認定した農家のこと。

林業の振興

現状と課題

本町の森林面積は、3,657haで総土地面積の36%を占めており、また、この内ほとんどが民有林で、その人工林率は約71%となっており、主としてスギとヒノキによる植生となっています。

これまで、森林施業計画の達成に向け、状況に応じた集団的な施業を行っており、また、作業路網等の整備により生産基盤の強化が図られています。

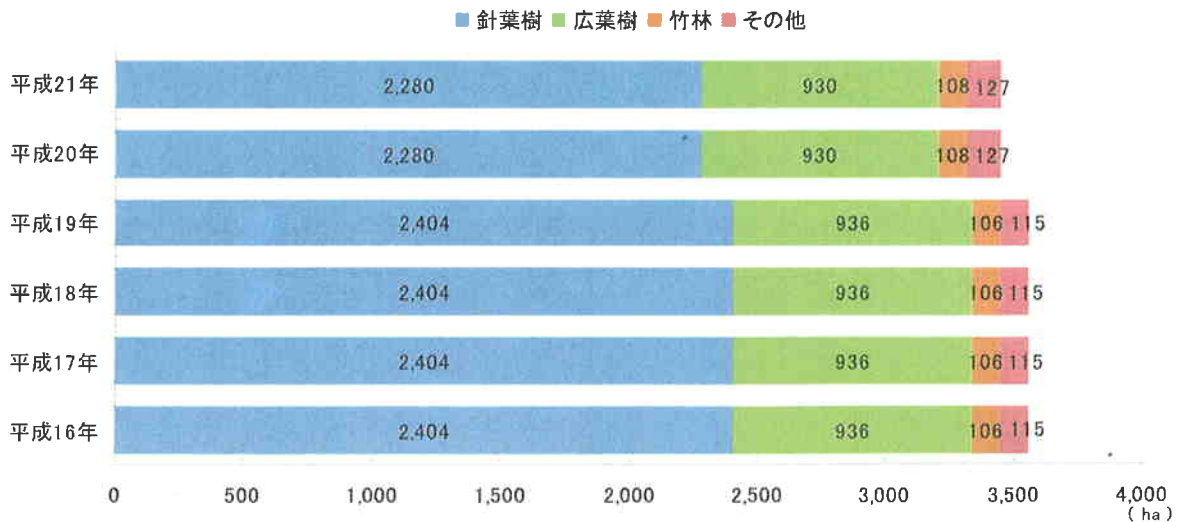
特用林産物の生産振興としては、大崎枝物生産組合を中心に、緊密な連携のもと枝物生産の向上と林業経営の安定を図るため、技術講習会や先進地研修等を行い経営基盤の強化に努めているところです。

また、定期的な下刈り・除伐等を実施し、併せて林道の整備も行うことで、常に公益的機能が保持できるよう管理にも努めています。

しかしながら、林業を取り巻く状況は、林業従事者の減少や高齢化に加え、木材価格の低迷などによる生産意欲の低下から、適切な森林管理が難しい状況となっています。

今後においても、山林は水資源のかん養*や土砂の流出防止など、多面的な機能を持っており、このような側面からも林業振興策は重要と認識し、林業担い手の確保による林業経営基盤の強化を進め、木材安定供給体制の整備を図る必要があります。

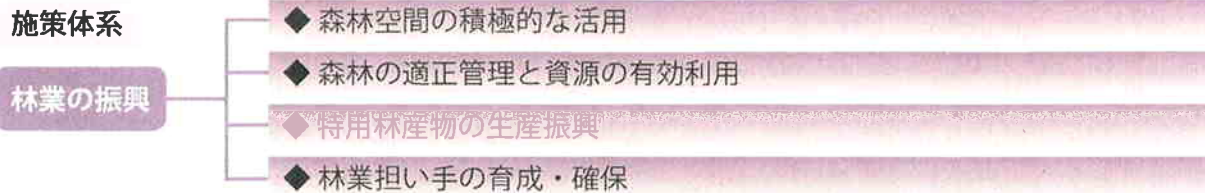
図 公私有林面積



資料：鹿児島県統計年鑑

※かん養

地表の水（降水や河川水）が帯水層に浸透し、地下水が供給されることをいう。



●適正管理された森林

計 画

■森林空間を積極的に活用します！

- ・貴重な地域資源である森林空間を安らぎと癒しの空間として有効活用します。また、森林ボランティアの受け入れなど、交流事業を展開します。
- ・有資格者を活用して、森林環境学習の充実を図るとともに、子どもにも早い段階からの環境・体験学習の機会の提供を推進します。

■森林の適正管理と資源の有効利用を図ります！

- ・森林の持つ水資源のかん養，生物多様性の保全等の公益的機能を発揮できる，健全で多様な森林づくりをめざし，適切な間伐を促進します。
- ・間伐材の利活用など，地域資源の有効活用を図るとともに，町産材の公共事業や民間事業への積極的利用を促進します。
- ・高性能林業機械の導入等により，木材の安定供給と低コスト化を図ります。

■特用林産物の生産を振興します！

- ・シイタケ等の生産については，消費者ニーズを的確に把握し，その生産振興を図るとともに，有効な新技術について導入を促進します。
- ・シキミやヒサカキ等の枝物の生産振興を図り，特産林産物の産地化をめざすとともに，集出荷体制の整備及び新規参入の促進に努めます。

■林業担い手の育成・確保に努めます！

- ・地域林業の中核的な役割を担う森林組合や関係機関と連携して，地域林業のリーダーとなる人材の育成・確保に努めます。

水産業の振興

現状と課題

本町の水産業は、海面においては志布志湾を漁場とし、シラス（イワシ類の仔稚魚[※]）漁を中心として、機船船曳網（バッチ網）漁業などが営まれ、内水面においては、そのほとんどが養鰻業であり、国内有数の生産地として、広く認知されています。

水産加工業は、シラスを釜揚げした「ちりめん」や加工うなぎを県内外に出荷している状況です。

水産資源の確保として、海面漁業は、東申良漁協が中心となり、各種補助金を活用したヒラメやマダイの稚魚放流事業を通し、栽培漁業の推進、並びに管理型漁業への取り組みを行っています。また、内水面漁業は、大崎町内水面種苗採捕組合を中心に、志布志湾養鰻協会等と連携を図り、資源保護のため親魚の放流を毎年行っています。

近年の水産業を取り巻く環境は、漁獲量の減少、価格の低迷、漁業就業者の減少や高齢化など極めて厳しい状況にあります。

今後も「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換を推進し、水産資源の充実をめざした稚魚の放流や魚礁の設置等を進めることが重要です。

また、関係機関と連携を図りながら、担い手の育成、人材の確保を図るための支援に努める必要があります。

施策体系



※仔稚魚（しちぎょ）

仔魚と稚魚の両者を合わせたものの総称。

仔魚とは、魚類の成長過程における初期の発育段階のひとつ。

稚魚とは、魚類の成長過程における成長段階で初期のステージ（仔魚の次が稚魚）。

計 画

■資源の保護増殖と生産基盤の整備に努めます！

- ・海面漁業では、従来の獲る漁業にとどまらず、漁業者と関係機関が一体となって自主的な資源管理を促進し、水産資源を漁業者が自らつくり育てる資源培養管理型漁業をめざします。
- ・水産資源の維持・増殖のため、魚礁等の整備を支援するなど、生産基盤の向上に努めます。

■内水面漁業の振興を支援します！

- ・内水面資源の減少に対応するため、組合等と連携し、親魚の放流による資源の保護と増殖を図ります。
- ・有数の養殖鰻の産地であることから、安全・安心な生産体制の確立や消費拡大によるブランド化を支援します。

■漁港機能の維持・充実を図ります！

- ・国・県等の関係機関と連携し、安全で働きやすい漁港機能の維持・充実を図ります。

■水産業担い手の育成・確保に努めます！

- ・新規漁業就業者の確保に向け、関係機関と連携し、海技免許取得の支援を図ります。また、漁業を担う青壮年部や女性部の活動を支援し、中核リーダーとしての育成・確保に努めます。



●うなぎ親魚の放流風景

2 商業の振興

現状と課題

商業においては、商店街等の活性化を図ることを目的として、「夏祭り花火大会」等の開催や空き店舗を借り上げ、魅力あるコミュニティ施設を設置するなど、町商工会が中心となり実施した「まち」を元気にする取り組みに対し、協力・支援をしてきました。

しかしながら、既存の商店街や地域に密着して展開してきた個人商店においては、車社会の進展や郊外型大型店の進出に加え、後継者不足、景気低迷の影響により、その経営は厳しい状況となっています。

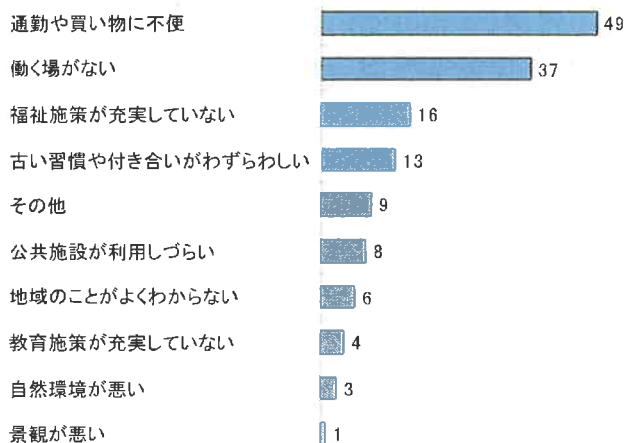
今後は、消費者ニーズの把握に努めるとともに、買い物だけでなく、憩いの場や交流の場としても町民に親しまれる多様な機能を備えた、魅力ある商店街づくりや商業拠点の形成が求められています。



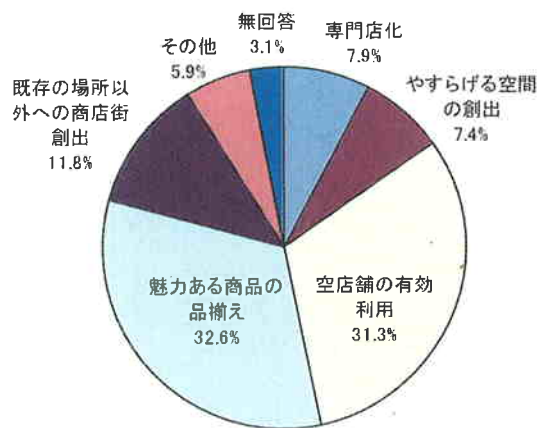
●夏祭りで賑わう様子



●商店街に設置された色とりどりの七夕飾り



※町民アンケート調査結果
【大崎町を住みにくいと思う理由】



※町民アンケート調査結果
【商業活性化のための必要事項】

おおさき未来検討会議の重点提言

◆地産地消できる場所の整備，観光施策との連携

施策体系

商業の振興

- ◆ 商工会と連携した空き店舗対策
- ◆ 農業や観光と連携した地産地消の推進
- ◆ 経営体質の強化と育成

計 画

■商工会と連携し，空き店舗対策に取り組みます！

- ・空き店舗の有効活用を図る事業者等を支援し，イベントや観光と連携した商業の振興に努めます。
- ・地域のふれあいや交流の場としても機能する商店街づくりを推進します。

■農業や観光と連携した地産地消を推進します！

- ・マーケット動向や消費者ニーズを把握し，生産性の向上や品質の改善などの創意工夫と消費者に信頼される商品づくりを支援します。
- ・町内消費の拡大を図るため，農業や観光と連携した「地産地消」を推進するとともに，その拠点整備を図ります。

■経営体質の強化と育成を図ります！

- ・中小規模の小売店の育成と経営の安定化を図るため，融資制度の充実や経営活動への指導を行うなど，関係機関と連携し経営活動の活性化に向けた取り組みを支援します。
- ・若手経営者や後継者などを対象とした各種研修などを充実させ，将来を的確にとらえる経営感覚を持つ人材育成を支援します。